

令和3年度 第3回学校運営協議会議事録

- 実施日時：令和4年3月5日 9時30分～11時30分
- 開催方法：対面式会議（オンラインによる参加ご希望の委員がいなかったため）
- 開催場所：府立淀川清流高等学校 校長室
- 出席者：委員4名、事務局（校長、事務長、教頭）

I. 会長あいさつ

会長が欠席のため、副会長から会議開始の挨拶

II. 校長あいさつ

- ・会議日程が当初予定よりも遅れての開催となった、改めて感謝申し上げる
- ・次年度以降も2月～3月の開催を検討している、ご協力をお願いしたい
- ・昨日（3月4日）は卒業式を無事挙行できた
- ・特別入学者選抜に関する各種報告

III. 報告及び協議事項（事務局より）

① 令和3年度学校経営計画に係る自己評価（案）について

- ・評価指標の授業アンケートは7月と12月に、学校教育自己診断は12月に実施
- ・現在の進捗状況については、7月実施の授業アンケートをもとに説明する

○第2回授業アンケート結果について【資料01】

- ・質問項目について … 経年変化を見るため、質問事項は変えていない
- ・結果について … 令和2年度第1回・第2回及び令和3年度第1回・第2回授業アンケート結果を比較

⇒全般的に、昨年より数値の上昇がみられる

気になる点は「総合」の評価が下がったこと

ESとして特徴ある授業の実施をしているところだが、生徒に成果を実感してもらえそうな授業展開になっていない可能性がある

令和4年度は入念な計画を策定したうえで、事前・事後学習を含めた系統立った授業展開をしていく必要を感じている

- ・第1回の振り返りは、相次ぐ臨時休業により、十分な機会を確保できなかった
- ・第2回の振り返りも組織的にはまだ思うように進んでいない
 - ⇒ Googleフォームを活用して個人振り返りを実施したうえ、次年度の学校全体の研修につなげていきたいと考えている

○学校教育自己診断結果について【資料02】

- ・生徒、保護者、教員の三者比較において気になる点
 - 質問5 プライバシー・守秘義務に関する項目
 - 質問7 教育相談体制に関する項目
 - ⇒生徒及び保護者と教員との意識に開きが見られる
 - 再度教員に結果を周知しつつ、学校体制の再構築を図っていく必要がある
- ・令和3年度より、教員への質問項目を大幅に増加した（質問項目26.～35.）
 - ⇒予想されたことではあるが、なかなか手厳しい結果が出ている

○学校経営計画に係る自己評価（案）について【資料03】

- 1 確かな学力を育成する
 - (1) 「わかる授業」「面白い授業」を実施する
 - ⇒授業アンケートの結果が向上 ◎
- 3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する
 - (1) 進路実現に必要な基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める
 - ア 遅刻指導
 - ⇒大幅に減少 ◎
 - イ 朝の挨拶運動
 - ⇒思うように機能しなかったと実感している △
 - ウ 通学マナー
 - ⇒今年度は近隣からのご意見が多数あった △
 - (2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる
 - アイウ 相談体制、学部専門家等の活用について
 - ⇒学校教育自己診断結果にもあったように、再度学校組織体制の構築を図る必要がある △
- 4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する
 - (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める
 - ウ 部活動の加入率
 - ⇒新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、具体的な取組みがほぼできなかった、次年度は是非力点を置いて取組みたい △

ご意見

(委員)

学校教育自己診断「5 プライバシー、守秘義務」について

- ・否定的な意見があるわけではないので、そこまで気にする必要はないのかと思う
- ・ただし、何をどうしているのかの情報共有をしっかりともらいたいと感じた

学校教育自己診断：教員「32. 服務規律への自覚」について

- ・この項目の肯定的意見が低いのは寂しい、是非頑張ってもらいたい
- 学校経営計画に係る自己評価（案）部活動について
- ・仕方がない部分もあると思う、次年度に期待したい

（事務局）

北淀高校からいる教員と淀川清流からの教員との意識に乖離がある
溝を埋める存在が少ないのが問題、同僚性を高める仕掛けが必要かと考えている

（委員）

確かに、方々で人材育成の難しさを聞いている
昔気質の人と、若い人との間の乖離を埋めることが難しいというのはよく聞く

（事務局）

いろいろ手立てを考えて仕掛けてはいるが、時間がかかる点かと思う
服務規律は100%にならないといけない項目である
JASSOに係る個人情報の行方がわからないという事案が生起している

（委員）

超勤が29.1時間に収まっているのは素晴らしい

（委員）

令和5年度から中学校では部活動を地域に返していく予定
全国的に部活動の在り方を変えていくという方向性となっている
令和5年度を過ぎたあたりから中学校に関しては超勤が減っていくと予想されている
部活動に関する超勤がほとんどを占めている

（事務局）

部活動指導員は教員の代わりに生徒引率もできる

（委員）

部活動指導員が指導している時は、顧問は休むこととなっている

（委員）

部活動是非論はいろいろあると思う
生徒指導の一翼も担っているのに、完全に地域に戻すとどうか…という意見はないのか？

（委員）

教員を部活動指導員にする
部活動指導員として勤務している時間は除かれる
経済産業省が関係しており、スポーツクラブ関係者も交えた大々的な有識者会議も行われている模様

全国でものすごいお金が動くこととなっているので、国は経済効果を踏まえて検討している模様

(委員)

お金を払わないと部活動ができないとなると、生徒間格差ができてしまわないか心配

(委員)

全国へのルートがつながりやすくなっている
昔ながらのやり方は大きく変革するのでは
地域の大人がもっと子どもの教育に絡んでいくという絵を描いているのではないか
桜宮高校は区単位で、文科省主導のもと試行を行っているところ

(委員)

昨日卒業式に出て感じたこと
先生方のベクトルがそれぞれ違うのではないかと感じた（保護者でもそう感じた）
仕事の分担量、先生方の負担の均等性
外部人材を導入することに抵抗がないのであれば、先生方へのキャリアコンサルティングを行い、先生方のベクトルを統一するところから始めてはいかがかと感じた。

(事務局)

本校は担任の負担が大きく、担任外の教員の仕事が極端に少ない
このあたりの分担を何とかしたいと考えている
各先生方の事情やでこぼこをフォローする体制を構築していく必要がある
縦割りではなく、同僚性を含めた“横のつながり”を持たせたい
学校による特色もあり、新転入の先生方の意識改革にも時間がかかっている

(委員)

教員の中には自分の領域を侵されたくない人もいる
アンケート結果を見ても批判的な人が少なからずいることがうかがえる
教員の人事配置を含め、校長の裁量でどうするのが悩ましいところ
多くの先生方は「どちらかというと思う」になるはずだが、あえて反対意見を書く人がおり、そこに引っ張られている部分もあると見受けられるので大変さがうかがえる
やらない人が意見を言う、意見を言うのみで行動には移さないようなマイナス要因を持っている人が多ければ大変だし、頑張っている人を潰してしまう可能性がある
否定的な意見を言う人をどのように生かしてあげられるかが管理職としての裁量
校長先生が赴任後、改革を頑張られた結果がここに表れているのだと感じた
1年で成果が出るものではないので、これからも継続して頑張ってもらいたい
前任校の色がなかなか抜けないのが現状、経験にも大きく左右される
表に出るのはなかなか時間がかかる、保護者や地域に届くには時間がかかる
良いことはなかなか伝わりにくく、悪いことばかりが素早く行きわたる

(委員)

先生方ももっと外部に吐き出してクリアにさせていただけたら良いと思う

これまでのカラー、イメージを払しょくするのは保護者からだと思っているので、積極的な発信はしているし、先生方の保守的な考え方も外部からの意見によって後押しできる部分はあるのではないかと考えている

(事務局)

人も含めて「流れ」を作ることができる人を育成するよう努めている

保護者の方や地域連携も含めて雰囲気固めていく必要があると感じている

来年度新型コロナウイルス感染症拡大が収まっていれば、もう少し保護者の方や地域の方に学校を見ていただく、知っていただく機会を増やそうと考えている

学校経営計画評価に係る自己評価（案）についてご賛同いただけるか

⇒各委員承認

② 令和4年度学校経営計画（案）について

○「めざす学校像」を変更

⇒生徒に寄り添い、「じりつ」を支える学校

「生徒に育みたい力」

⇒「わかる！できる！のびる！」を実感日、体得する基礎学力

主体的に活動し、社会でたくましく生きる力

令和3年度に実施した教員研修の中から出てきた意見を踏襲

中期的目標の5本の柱で実施

1 「確かな学力を育成」

・ ICT機器の活用…令和3年度はなかなか取り組めなかった

令和4年度は年度当初から積極的な実施をする

・ 授業改革…「枠組み」を整備して、スタンダードとして提示する予定

授業開始時に目標を掲げ、授業展開、最後のまとめまでの流れを構築し、全教員が同じように実施できるようにする、令和4年度も研修を充実させる

・ 選択科目…開講講座の増加を図り、選択科目の充実をめざす（TTの見直し等による担当授業の見直し及び授業時間の捻出）

2 「進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進」

・ キャリア教育ロードマップの作成…学年によりばらつきがある、学校として統一の目標、流れを作成する（運営委員会を中心に）

・ 英語や情報に関する資格の取得…授業を積極的に活用して資格取得を推進する

3 「生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する」

・ 挨拶運動…生徒会の積極的な参画、あいさつができる学校に

- ・通学マナーの改善…立ち番の配置替え、校マネで目立つジャケットを購入する等も検討、学警連携も行い警察にも立っていただいているので、令和4年度も引き続き協力依頼をする
- ・オープンスクール…第1回（7月実施）を中止、中学校との連携をより深める予定、中学校校長会に出向いて説明を実施する予定、部活動も含め再度中学校との連携を強化したいというねらい

5 「教職員の資質向上と校務の効率化を推進する」

- ・2室制の廃止…運営委員会を中心とした学校組織体制の再構築
各部長の顔が見えない、各組織の意見が集約できない
管理職、首席、各部長、各学年主任等が顔を突き合わせて会議
時間割に組み込んで毎週実施予定
各部署の意見を吸い上げて持ってくる、決定事項を下す、という流れを作り、“横のつながり”や“我が事と捉える”体制の構築を図る

ご意見

(委員)

素晴らしいと思います

(委員)

同じく、素晴らしいと思います

(委員)

部活動も含め、中学校との連携をとらせていただきたい
大学改革からはじめ、アクティブラーニングをはじめたが、高校が明らかにできていない現状があったので、「主体的で対話的で深い学び」に表現を変更した
大学改革は「国際人を育てる」という目標のもとはじめた、どの高校も今や改革をせざるを得ない岐路に立たされている
かなり大きな変更なので、数値的な伸びにつながるかは不明だが、大学入試そのものも大きく変わっていくので、高校としての取組みも頑張っていたいただきたい
これまで講義形式でやってきた人はむずかしい点があるし、ICTに頼りっきりでも生徒には伝わらず“腕”が必要になる
ベテランの話術と若手のICT技術をつなぐパイプ役である40代が少ない
茨の道になるという予想がされるが、頑張っていたいただきたい

(事務局)

「学び直し」を打ち出し、モジュール授業を行ってもいるが、中身が十分とは言い難い
最終的にはモジュール授業の中身も改革を行い、生徒が「わかった」を実感できる授業づくりをしていく必要性を感じている
うまい先生はたくさんいる、授業見学をするという習慣もないので、積極的に授業見学をし合える風土も作っていきたい

(委員)

教育庁から配付されているICT機器にはデジタルドリルが搭載されている
できなければAIが問題を易しくしていくというシステム
問題を解くことができたらすぐに「○」がつく（「×」はつかず、「？」が出る）
生徒は承認欲求があるので、どんどん自ら学習を進めていくという傾向にある
学校では無料で実施することができ、小学校からできる（高校はないか？）
教師は全てモニタリングができ、何をどのくらいの時間をかけて実施したのかが分かる
すぐ「○」がもらえるので、成功体験を積むことができる
取組みが難しい生徒にはゲーム感覚で学力向上が図れるので、よいツールだと思う

令和4年度学校経営計画（案）についてご賛同いただけるか
⇒各委員承認

③職員の任用に関する意見について
特になし

IV. その他

- ・次年度の委員について
- ・次年度の会議日程について
6月4日（土）、10月29日（土）、1月28日（土）…3回めの会議日程は要検討